



## スイッチを押し続けて ムーブを起こす

オーガニックテキスタイル  
世界基準 (GOTS) 地域代表  
三好智子氏



— 衣食に関するオーガニック認証の中でGOTSはどんな特徴がありますか。

私たちが身につける繊維製品は、綿花などの栽培から製品化まで多くの工程があり、複数の国をまたぐことも多いです。GOTSとは、テキスタイル（繊維）加工を対象とした国際認証で、ドイツで非営利として登録された国際団体です。私のような地域代表が世界の各ローカルエリアを担当しています。

オーガニックというと農業はもとより合成化学物質とは無縁という印象を持たれますが、今のテキスタイル加工ではゼロにはできません。生分解性が高いなど環境負荷をかけず、工場で働く人たちの人権と健康を守る基準を設け、それを審査します。

— 三好さんがオーガニックに関心を寄せた経緯を教えてください。

子どもの頃から「国ってなんだろう？」という漠然とした疑問を抱いていた私は、国際関係を学ぶために大学で渡米しました。しかし、大学で国際関係学や政治学を学ぶうちに、本当に社会を動かしているのは政治ではなく市民社会だと気づき、本格的にソーシャルムーブメント（市民活動）を学ぶため転学しました。そこでは、社会学や人類学、民俗学、歴史学のほか映像制作や言語学の教授陣がいて、日常の暮らしにどんな課題が潜み、解決にはどうしたら良いかを多角的な視点から繰り返し議論するワークショップもありました。米国では日本よりも多様な背景を持った人たちがいます。なので、関心もジェンダー、人種、ドラッグなど多彩。廃棄物処理場や工場、軍事基地あるいは商業カジノといった負の影響を及ぼす施設を貧困地へ招聘することで格差が広がる環境差別や、白人至上主義に関する議論におよぶことも度々です。とことんアイデンティティを模索し、己をえぐられるような対話を強いられるハードな学習に泣き出したり、挫折する人もいましたが、「社会をより良く変える」という目的意識はゆるぎないものでした。



原料の収穫から環境負荷をかけず社会的に責任のある製造を経た製品。

インターン先を選ぶときも、より良い変化を創るソーシャルムーブメントの考え方を軸に、暮らしや国家基盤にもなる分野である「食」をテーマにしたいと思い、すでに当時のアメリカで

は一般的だったオーガニック食品の認証機関で経験を積みました。

— 帰国後、有機JAS認証機関での経験やGOTSの認証制度を通じての社会への気づきは。

GOTS認証取得に向け企業をサポートする際、技術革新が環境問題を解決する例に出会います。例えば布に柄を印刷するために使用される化学染料は大量の水を必要とし水質も汚染しますが、今は環境に負荷のない成分のインクジェット印刷があります。また、ジーンズのダメージ加工も粉塵による健康被害が問題でしたが、今や日本にはレーザー加工で同じ効果が得られる技術があります。昔ながらの手法だけでなく、最新技術を適切に取り入れることは大切だと思いますし、それを実現するのは課題に気づき解決しようとする一人一人の意識と行動にかかっています。私の役割はその気づきスイッチを押し続けることですね。

[聞き手：つな環編集部]

### 三好智子(みよし さとこ)

オーガニックテキスタイル世界基準 (GOTS) 地域代表。IFOAM Organics Asia (国際有機農業運動連盟アイフォーム・アジア) 理事。日本オーガニックコットン協会顧問。米国でソーシャルムーブメント（市民運動）を学びオーガニックに出会う。卒業後は有機JAS認証機関、有機農業運動NPO、ソーシャルデザイン会社勤務を経て現職。千葉県在住で「木更津市オーガニックシティプロジェクト」にも参画。北海道出身。